

柔道成年女子団体が優勝し喜び合う愛知チームの(左から)吉田、大石、土川の各選手一名占屋市港区の県武道館で



プレッシャーに勝つ

勝利を告げる赤旗が上がった瞬間、愛知県の大將・吉田希は顔をほころばせ、チームメイトを振り返った。桜丘高の先輩でもあった土川美和子、大石愛子が抱き合つて、びよんびよん跳びはねている。「ホッとしました。負けたらどうしようと思つてたから」。吉田は目を細め、喜びをかみしめるようにうつぶい

た。開催県は、強化の時間も費用も他県より多く費やし一勝

やったあ！愛知V

柔道成年女子

たなければならぬ、勝つて当たり前」の雰囲気、特に中堅の大石はアジア大会で金メダルをとったことで、勝つことに対するプレッシャーはさらに大きかった。「(アジア大会からの)調整期間が短かったから、調子はいいとは言えなかった。それに、地元で勝たなきゃいけないと思うから、動きが硬くなつてた気がします」と大石。そんな中、彼女たちの気力を高ぶらせ、積極的に技を出させたのは、チームメイトや監督、スタンドの千人を超える歓声だった。「苦しい時、先輩たちの声が聞こえてくる

んです。すごく勇気づけられて……」と吉田。最年長の土川も「小さいころからの仲間でしょう。自分がしっかり守れば、後で(勝利を)決めてくれるという信頼がある」とチームワークの良さを勝因に挙げた。「やっぱり優勝しなきゃいかん」。歓声に向かって手を振る二人の笑顔を見て、村松利之監督が、しみじみとつぶやいた。

(井元)